おおの

議会だより

No. 102

平成7年1月25日

発 行

大野市議会事務局



第276回 12月定例会

情が、所管の各委員会に付託されま

れ、次いで各議案ならびに請願・陳

質問終結後、請願・陳情が上程さ

質問を行いました。

(共産)の四議員が、それぞれ一般(社会)野田幾久代(無)栄 正夫

20議案を可決・認定・同意

佐々木一夫 (同志会) 宇野政市郎

(清友会) の五議員が、また、十三

然幸蔵(同志会)雨塚忠夫(清友会)

十二日には畑中章男(清友会)金

口には竹内安汪(清友会)村西利栄

助役選任の議案が同意されました。

条理由の説明が行われ、引き続き、

案をはじめ、各提出議案について提

八年度一般会計補正予算(第三号)

陳情の結果は別掲のとおりです。 陳情の結果は別掲のとおりです。 最終日の二十七日には、人事に関 最終日の二十七日には、人事に関 最終日の二十七日には、人事に関 世日まで延長することに決しました。 最終日の二十七日には、人事に関 であ議案三件について提案理由の説 はあり可決。引き続き、会期を二十 とおり可決。引き続き、会期を二十 とおり可決。引き続き、会期を二十 とおり可決。引き続き、会期を二十 出された議案二十件について審議しまでの十二日間とし、理事者から提二月八日に開会され、会期を十九日二月二日七十六回定例市議会は、十第二百七十六回定例市議会は、十

ました。

その後、

市長の所信表明の外、平成

ていました各会計の決算認定を行い、

初日には、前回より継続審査となっ

市政をき

うか。

答 ①「総合福祉センター」に

設置目的が

状ではその

果たされていないと思うが、

E

ム」が、

現

ビス調整子ー

高點中

とキッスのまち大野」の考え方 を飲めるという意味から「湧水 ズとして、直接口をつけて湧水 に利用するため、キャッチフレー ①大野の水を市の活性化策

③地下水保全対策として、 の考え方はどうか。 水を循環させるシステムづくり ②流雪溝は整備されてきている ムポンプに量水計を設置する考 に十分な水量を確保するため、 そこで市内の南北線の用水路 肝心の水量が十分でない。 ホー

について 水の管理とまちづくり

するとともに、筋水や敬水意識 除く市街地にモデル地区を設定 理解を得ながら、上水道区域を ③ホームポンプの量水計設置に 究する必要があると考えている。 は理想的と思うが、 な経費を要するので、理論的に 全について対策を検討したい。 ついては、平成七年度に市民の

総合福祉センター 建設について 0

施設を網羅した「総合福祉セン 衛生課を併合してはどうか を図るため、福祉事務所や保健 利便さを考慮して、総合的なサー 問 ビスが行き届くよう施設の整備 また、各種福祉サービス関連 ①事務の合理化と利用者の

進めたい。

きながら、

議会と十分協議して

題であるので、住民の意見を聞

センターの建設は、

重要な課

と思っている。

うな在宅福祉の拠点施設が適当

福祉の連携が保持できるよ

等の機能を持たせた、

保健、医

祉センター、介護支援センター

ボランティアセンター、

老人福

保健センター、社会福祉協議会、

このセンターの性格としては

成目標としている。

の中に、平成十一年度までを達 た「大野市老人保健福祉計画」 ついては、昨年度住民に公表し

えはないか。

①「湧水とキッスのまち大

現在の時点で湧水が確認できる ニークな発想であると思うが、 野」のキャッチフレーズは、ユ

> 湛水や地下水の涵養等を継続し思う。そのために当面は水田の 場所はわずかに四、 五カ所だと ②保健、 えるべきで はないか。 設計画を考

ていきたい

この流雪溝に流す設備が今冬に 地南部へ導入できる弥右ヱ門用 ②降雪期には水量が不足すると は稼働できる予定である。 城町ポンプ場からくみ上げて、 通りに流雪溝を整備されたが、 水の改修や、県事業として六間 して、平成三年度から直接市街

るため

0

どを推進す

循環システムについては膨大 高揚を図り、今後の地下水保 地下水採取量の実態を把握 今後更に研

> 問題 点を洗い出し、七年度以降予算 おける相談業務を通じての問題 「大野市介護支援センター」に 中で反映させていきたい。 点や六年十月に開設し te

構想について コミュニティープラザ

えているか。 取り組んでいるが、市として具 ザ構想」に、民間レベルで鋭意 を有する「コミュニティープラ 問 答 コミュニティープラザ構想 体的にどのような取り組みを考 に、商工・観光の中心的な機能 市街地の活性化を図るため

点となる産業・経済・文化等の 供をはじめ、 ず、広く一般市民や当市を訪れ る観光客に対するサービスの提 は当市の商工業者だけに限定せ 地域振興の活動拠

ついては、平成六年度は実務者 ②高齢者サービス調整チームに

レベルのケース検討会議を、月

回開催しており、その中での

本会議 (一般質問) 本会議(一般質問、 請願・陳情上程、 各案件委員会付託

委員会 (建設・産業経済)

委員会(教育民生·総務)

1 休

19日 本会議(各委員長報告、

1 休 会 26日 27日 本会議(追加議案上程、 採決)

程 審 議 В

療、

福祉な

本会議(会期の決定、決算 8日 特別委員長報告、 議案上程、提案理 由の説明)

9日 5 会 休

11日

12日

13日

14日 15日

16日 会

18日

質疑・討論・採決)

20日

設を整備するとしている 情報発信基地として、 して、現在商工会議所が中心と る要請に応ずる機能を有する施 紀を見据えて、複雑多岐にわた この事業は当市の補助事業と 三十 111

いる。 プラザ調査事業」に取り組んで

なって「おおのコミュニティー

想」を打ち立た。六年度は先進 振興に寄与する活動拠点となる 制定された機会に、「地域全体の 月に「小規模事業者支援法」が 地事例などの資料収集等を中心 コミュニティープラザの整備構 にした調査事業に取り組んでい 商工会議所では、平成五年八

と考えているので、行政として て支援していきたい。 の役割りは何かを適確に捕らえ なっているが、 近くその報告を受けることに 実施時期が重要

ついて 中部縱貫自動 車道に

うな交通体系が最善か、

の進入路や側道など、

を依頼した。

と協議して策定を急ぎたいと考

えている

沿線各集落への説明会は、

4

建設省の当初の方針どおり、 結ぶ道路として認識している。 陸と中京、関東圏を最短距離で ②市が先に建設省に要望した公 どうであったのか。 置を陳情したと聞くが、 針どおり中津川へのインター設 地方建設局へ、建設省の当初方 問 文書の取り扱いはどうするのか る時期はいつの時点か。 また、 インターの位置については、 ①中部縦貫自動車道は、北 ①市は、 地権者からの同意を得 先般建設省や近畿 返答は 围

②公文書については、

今後正式

に取り下げたい。

観

を

やすことについて 光客の入り込み数 きるよう、

地元の理解を求めて

きたいの

を模索しながら、早期に開催で 後沿線一帯の環境対策や発展策

一五七号の中津川地係へ設置

中津川区へ出向き協力

道 することに定め、去る十一月二 三日、

るが、 ②歴史民俗資料館や産業文化展 改善する考えはないか。 問 ①市には年中行事が多くあ これらを一度総点検し、 示館の統合や、橋本家や

②平成二年度以来関係五集落に

施設の設置目的が異なる 約二十行われているが、 転については、 ②施設の統合や施設の移 ながら検討したい。 間を通して大小含めて、 となるように、点検をし ①市の年中行事は年 充実したイベント それぞれ

切り等について協議を行ってい

前 田

で、

挙に解決するこ

従って、今後は中津川インター 国·県 どのよ の観光施設の集積化や、

かか どおり実施する考えに変更はな 問 ①東縦貫線は当初の計画 案

当市とを結び、奥越の一体的な 考えている 方針どおり早急に整備したいと 発展を図るためには、 への努力目標はいつか。 また、 幹線道路であり、 東縦貫線の道路は勝山市と 同意を得ていない これまでの 重要な広 地区

免道路)の拡幅で努力したい。 示してきた現ルート案 については同意を得ていない。 解を得たが、残念ながら二集落 成五年度に三集落で基本的に理 対して計画案の説明を行い、平 同意を得ている集落について 今後とも、これまで地元に提 今後区内道路の取付け、 (通称農 踏

を図ってはどうか。

亀山の大野丸などを移転

して、有機的な観光対策

件

氏(58歳)

助役の選任に同意

(福井市下荒井町 4-37)

佳

と考えている。 きを速やかに行い、 得た段階で、 なお、五集落において理解を 都市計画法の手続 着手したい

きと考えている。 な連携を検討する中で配慮すべ とは困難であると思うが、将来 有機的

東縦貫線促進について

第 第 第 第 第 第 第 議 79 Ŧi. 五 Ŧi. Ti. 74 Ŧī. 案 + + + + + + 番号 + 三号 $\mathcal{T}_{\mathbf{L}}$ DU 六 号 号 号 号 号 号 業特別会計補正予算(第三号)案平成六年度大野市国民健康保険事 定について平成五年度大野市歳入歳出決算認 平成六年度大野市簡易水道事業特 平成六年度大野市老人保健特別会 平成五年度大野市水道事業会計決 別会計補正予算(第三号)案 計補正予算 (第二号) 平成六年度大野市一 算認定について 算(第三号) 件 般会計補正予 案 名 100 認 結 案可 案可 案可 案可 案可 果 決 決 決 定 决 決 定

第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 六 六 六 六 六 Ti Ŧi. Ŧi. \pm i. H. 六 + 1-十三号 十二号 + + + + + + + + + Ŧi 六号 四 八 $\pm i$ 七 九 t 六 号 号 뮺 号 号 号 号 号 号 号 施設設置条例の一部を改正する条大野市立農村集落多目的共同利用改正する条例案 案関する条例の一部を改正する条例関する条例の一部を改正する条例に 大野市道路線の認定及び廃止につ 置及び管理に関する条例の一部を大野市農業集落排水処理施設の設 成に関する条例の一部を改正する大野市重度心身障害者医療費の助 る条例の一部を改正する条例案大野市乳幼児医療費の助成に関す る条例の一部を改正する条例案大野市一般職の職員の給与に関す 業特別会計補正予算(第三号)案平成六年度大野市農業集落排水事 公平委員会委員の選任につい 公平委員会委員の選任について 教育委員会委員の任命につ 助役の選任について 条例案 正する条例案 大野市税賦課徴収条例の一部を改 平成六年度大野市水道事業会計補 等 (第一号) の 結 7 T 原案可 同同 司 īī 原案可決 秦可 案可決 案可 秦可 案可 案可 案可 意意意意 決 决 決 決 決 決 決

重要課題について 新年度の予算編成と

経済の低迷を反映して税収等の 業は何か。 述べているが、新年度の目玉事 全と人づくりの推進である」と 現下の地方財政は、長引く 最重要テーマは「環境の保 新年度の予算編成に当たっ 市長は提案理由の説明 の中

整備していきたい。 けたまちづくりの基盤を着実に 当市は中部縦貫自動車道建設

促進をはじめ、東縦貫線、公共 下水道など、将来の市の発展に

問

改め、「地方のこと る中央集権体制を 明治以来続いてい これに取り組む体 に基づき、当市も 行する」との原則 は地方で決めて実 地方分権は、 ている 欠かせない重要な問題が山 積

健の一体化など、時代の変化に ている。 伴う新しい行政需要も生じてき また、高齢者対策や福祉、 保

を大切にしたいと考えている。 題の解決を優先しながら、例え いられると思う。基本的な諸課 ると、相当困難な予算編成を強 業もあり、収入の厳しさを考え 求に基づいて、ヒヤリングを行 に役立つようなキメ細かな施策 編成作業を進めたい |額であっても市民生活の向上 更に、継続して実施する諸事 具体的には今後各課の予算要

地方分権について

肝要なことは、自治体職員の意 地方分権を達成するために

識とそれを支える

思うが、どうか。 住民意識であると システムの問題や

第275回 11月 臨時市議会

去る11月29日、第275回 臨時市 議会が開かれ、理事者から提出さ れた「収入役の選任について」の 議案を、全会一致で同意しました。

収入役の選任に同意

(牛ケ原 88-33)

時

彦

氏(57歳)

制等を早急に作る必要があると 考えている。

よび意識改革を図ることが肝要 派遣を一層進めていきたい。 をはじめ、各種研修等への職員 の中核となる行政マンの育成お で、地方分権を主眼とした研修 このため地方分権を担う体制

公民館の運営について

直す考えはないか。 現在の公民館長の嘱託制度を見 社会教育の振興を図る観点から、 テーマとして位置付けているが づくり、まちづくり」を最重要 市長は所信表明の中で「人

子想している。

洗い直して、経費の節減合理化

このため、事務事業を厳しく

に努めながら、二十一世紀へ向

以上に厳しい財政状況になると 収入が減少し、七年度も本年度

ている。 の必要性は現在もなお求められ 体制づくりをすることでありそ 政負担の軽減を図り、 理由は、組織機構を縮小して財 と思うが、 答 嘱託制には一長一短がある 嘱託制に踏み切った 効率的な

その役割を十分果たしにくい面 るなどの点では、嘱託職員では 員が住民と行政の橋渡し役にな 強い公民館の性格上、公民館職 ように一般行政との結び付きが 身分が不安定なことや、当市の を持つ人材を得やすいが、一方 があることも否めない。 嘱託制によって専門的な識見

> で対応していく中で、 ることを前向きに検討したい。 ながら、一般職の館長を配置す



ついて 六呂師高原リゾートに

現在企業との間で開発構想を協 車道の開通を重視していること において、企業は中部縦貫自動 問 議している。 は理解できるが、市は真にリゾー 答 奥越高原リゾート構想は、 ト計画を推進する考えか。 六呂師高原リゾートの推進

と考えている。 期実現に全力を挙げていきたい には、中部縦貫自動車道の整備 元の期待は実に大きいので、早 このリゾート構想に寄せる地 しかし、企業の本格的な進出

従って、

基本的には嘱託制度

今後の活躍を期待している。

区や公民館の実情に十分配慮し 今後は地

県ではミルクランド構想の計画 必要と考えている。 とも併わせ、 ミリーリゾート整備推進事業、 対策を先行させたい せることになっている。 策定事業をそれぞれスタートさ そこで、来年度から市がファ 当面は公共事業による活性化 いま少しの時間が

市 長の政治姿勢について

対する適性をどのように考えて 問 いるか。 助役および収入役の選任

薦をしてもらった。 い人物を大所高所から選考、 添えにより、大野市にふさわし 井県知事をはじめ、県当局の 答助役の選任については、 推 力

た人物で、行政マンとしての人 ては、財政・会計事務に精通し の意味から前田助役の就任は誠 揮できる人物と考えていた。そ 性化のために産業振興に力を発 ていける人物、更に、当市の活 た、県との太いパイプを構築し 野で大野市を見られる人物、 い人物として選任した。両氏の に適任者を得たと考えている。 また、収入役の人選に当たっ 人格、識見に優れ常に広い視 能力に優れ職員の信望の厚 ま

ついて 湯の谷温泉保養施設に

問 ることが急務だ」と述べていた を考え、阪谷地区の活性化を図 の説明では「温泉に代わる何か 施設の建設を断念したが、先般 に方策を検討して欲しいが。 地区や当市発展のため早急 阪谷地区の湯の谷温泉保養

を得なかった。 望めないので、白紙に戻さざる て湯の谷温泉を利用した開発が については、湯量の減少によっ 答 阪谷地区での温泉保養施設 しかし、現在阪谷地区では代

置され、 契機に地元では企画委員会が設 いるようである。 最もふさわしい施設を検討して 替施設を希望しており、これを 当地区の地域づくりに

ら考え、できる限りの支援をし ていきたい。 市としてもこれまでの経緯か

公立総合病院について

立総合病院建設への取り組みに 問 ついて伺いたい。 市民の根強い要求である公

長年の念願であり、 総合病院の建設は、 以前から要 市民の

> 設は、財政的・経営的な両面か 取り巻く厳しい状況の中で断念 の誘致を進めてきたが、医療を ら困難であるとして、 望されていたが、市民病院の建 した経緯がある。 総合病院

を調査し、十分検討したいと思っ ない総合病院建設を望む声が多 考えていきたい る。 難しいのではないかと考えてい 期に総合病院を建設することは、 ている。基本的に現状では、早 いので、 センターの設備的・人的充実を しかし、市民に負担の掛から 取りあえず現在の休日急患 建設に伴う問題点など

今後の農業問題について

問 とは、いかにして若者が農業に 農業にとって一番大切なこ



構想について 「阪谷・パノラマの里」 「上庄・里ィモ の里」

米などを供給する「里いも会館 ①上庄地区に豆腐や酒、 活性化への起爆剤として 里芋

阪谷地区では青・壮年層を中

いる。

事業の促進、農家の負債対策、 性について伺いたい。 かであるが、当市の農業の将来 農地の流動化対策、 たが、その主な内容は土地改良 子を去る十月二十二日に決定し イラウンドの米の部分輸入に伴っ 答 政府は、ガット・ウルグア 緊急農業農村対策大綱の骨 中山間地対策等である。 新規就農村

したい。 県等の動向を見極めながら対処 決定もされたので、慎重に国 平成七年度から六年間で、約六 たな法律として「新食糧法」の 兆一○○億円と聞いている。 今回、 これらの対策に伴う事業費は 食料管理法に代わる新

陳

陳

BAE

めたい。 ながら、遊休農地の防止等に努 する一方、農地の流動化を図り 産として美しい村づくりを推進 稲作や園芸作物を組み合わせた 土地を利用し、土地に適合した 特色ある農業や、市民共有の財 ついては、豊かな自然と肥沃な また、当市の農業の将来性に

陳

い結果となった。 ②阪谷地区の立地条件を最大限 が当面の急務と考えている。 まずは生産体制を確立すること タウンを造ってはどうか。 住宅地ゾーンとして、 ②阪谷地区に週末型、 の建設構想はどうか 少によって、断念せざるを得な 養施設を計画したが、湯量の減 に活用するため、湯の谷温泉保 は、素晴らしい提案と思うが、 ①新たな里いも会館の建設 パノラマ 定住型の

> 見を、市としても最大限に尊重 地域づくり活動で集約された意 地区のリゾート構想を念頭に置 例地の視察などを行い、六呂師 ある地域づくりを目指しており きながら、これらと相乗効果の 定例的に会合を開催したり、 心とした企画委員会が設置さ 先



模索していき 振興策を十分 域に根ざした

たいと考えて

請 頭 陳 結

就業し魅力ある農業経営を図る

情二十三号	(継続分)	(継続分)	情八号	願四号	番号	
する陳情書 意見書」の提出 堅持・拡充を求 の提出	助成延長につい母子家庭の医療	の陳情書 「やっぱり食」	全廃に関する	いて農道の市道編	件	
にめ度 関るの	て費の	を国にい を国にい	陳 負 担 告 金	入につ	名	
代表 前田耕福井保育団体連絡	連合会 会長 壬生佐久7 外一4	食糧と健康を守る程井県連絡会代表委員	井/口区長 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	田野区長 高田祐吉 外三区長	提出者	
一会継続審査	名子 祉 採 択	夫 継続 審査	長継続審査	長 採 択	結果	

しながら、地

据 工業団地について

市

0

活性化のために中据

鋭意交渉している。 を先行投資型工業団地と位置付 時の進出希望の企業が経済情勢 うなっているのか。 る。この団地への企業の進出計 に工業団地の用地を取得したも 等諸般の事情により進出を断念 公社が団地造成を行っ 答中据工業団地は、 その後、市ではこの工業団地 また、現在の土地の価格はど はあるの 市内・県内外の企業三社と 在の土地価格は、 現在商工観光課を窓口とし 一坪当たり四九、 現在は荒れ地と化してい 教育委員会委員の任命 に同意 六年度末 井 道 明 氏(51歳) 000円 たが、当 土 一地開発 (錦町 4-17)

公平委員会委員の選任 に同意

中 為 氏(65歳) (土打 71-6-1)

谷 忠 一 氏(65歳) (上舌 8-9)

げて努力したい。 がかさむ一方であるので、一日 も早く誘致を進めるため市を挙 程度となっている。 このままの状態では金利負担

助 ついて 役の大野市のイメージ

努めたい

ジはどうか 助役の大野市に対するイメー

問

然と、格調高い文化のまちであ ると思う。 答 大野は、恵まれた美しい自 振興策に生かしていくつもりか。 の識見をどのように当市の商工 働部理事などを歴任したが、そ また、商工振興課長や商工労

はないかと感じた。 造業分野の数字は寂しく、工業 を目にしてもっと伸ばせるので 出荷額やその産業構造の広がり 今一つは産業、 特に工業、 製

> がら、市政進展と福祉の向上に としての役割りを十分自覚しな と思っている。県とのパイプ役 分野進出などを図っていきたい しい技術、 多角化するための企業誘致、 る地場産業の育成や産業構造を 中小企業対策として、 新しい商品開発、 伝統あ

農業委員会委員について

計総数二十七人である。 員は三選挙区で二十人、議会推 員会法に基づき、選挙による委 和二十六年に制定された農業委 る計画はないか。 時代に適応した委員数に削減す のままで現在に及んでいるが、 は 問 薦五人、農業団体推薦二人の合 昭和二十六年以来二十七人 農業委員会の委員数は、昭 当市の農業委員会の委員数

の事務を処理している。 対策および新規就農者の促進等 法に関係する転用関係事務や農 各部会を設けて、主として農地 類似都市や県内の市町村の状況 業振興・農地の流動化、 活動としては、農地・農政 委員定数の削減については、 担い手 0)

新 新 について中野堂本線、 大橋中保線

これら路線計画に変更はないか の計画案が、 置付けし、 連絡するアクセス道路として位 問 たのは平成二年度末であるが、 縦貫線のアクセス道路として 東縦貫線と市街地北部とを 中野堂本線の計画について 中野堂本線と大橋中保線は 平成二年度に関係集 関係地区に示され

られるよう積極的に取り組んで 域外の集落についても協力が得 精力的に努力するとともに、区 北部第三土地区画整理事業計画 いきたい。 土地区画整理事業の組合設立に の区域内にあるので、 この道路計画では、 今後は、 計画線が

0)

取り組み状況はどうか。 情報公開が必要と思う。

いては、 関係集落の同意を得た後に関係 えである。 区へ出向き、 また、大橋中保線の計画につ 東縦貫線計画について 協力を依頼する考

開かれた市政を実現する」こと

するばかりでなく、市民参加の 市民の開示請求権を法的に保障 入が「行政機関の情報に対する 度の基本事項をまとめ、制度導 文書管理のあり方や情報公開制 報告書をまとめたが、その中で 答 昨年情報公開制度に関する

情報公開制度について

いる。

理の改善が期待できる」として

な行政事務運営の効果、

文書管

して「職員の意識改革と効率的 とし、更にはその二次的効果と

人づくり」を強調しているが、 問 主権者に対して正しい認識を促 市長は 「住民本位の市政と

分検討したい。

を考慮しながら、

委員定数の在 委員会内で十

方等について、

者から提出された、

落に説明している。

般会計補正予算など議案 2 件を可決

平成7年1月19日、第277回 臨時市議会が開かれ、理事

「平成6年度大野市一般会計補正予算(第4号)案」 「大野市特別職報酬等審議会条例の一部を改正する条例案」 いずれも原案のとおり可決しました。

第277回 臨時市議会

書管理規程などを整備したい。 七年度から文書の保管場所や文 バシーの保護等に十分配慮し、 この制度の導入には、プライ

現 在

ついて 総合的な廃棄物行政に

②現在の処分地の現状から考え と考えるが、どうか。 り方を再検討すべきではないか ると思うが、どうか。 の課題として取り組む必要があ て、最終処分地の問題は、今後 ①現在のごみ焼却施設の在

どの対策については、 ③ゴミ処理の有料化や指定袋な から取り組む考えか。 いつごろ

取り組みたい。 成十一年ごろを建設メドとして うな方式の施設の在り方を、平 やたい肥化など、還元できるよ で検討してもらい、 ため、ソフトとハードの両面か ミ質の変化や大型化に対応する 「廃棄物減量等推進審議会」 ①生活様式の変革に伴うゴ 固型燃料化

②現在の処分地は景観上の観点 め立てしている。 うに土で覆い、整地しながら埋 から、コミが表面に見えないよ

画しており、その結果を踏まえ の協力を得ながら、実施の方向 区を設定し、婦人会や町内会等 ③有料化については、モデル地 て今後検討したい。 今年度、破袋設備の設置を計

で取り組みたいと考えている。

平成五年度 歳 入歳出決算を認定

年度大野市歳入歳出決算認定について「議案第四 ら継続審査となっていた「議案第四十五号平成五 第二百七十八回十二月定例会の初日に、 前回分

十八号平成五年度大野市水道事業会計決算認定に ついて」の二議案について決算特別委員長より審 定されました。 査の報告があり、 いずれも委員長報告のとおり認 **++++++++++**

委員会での意見・要望は次のとおりです。

○歳入の未収入金について

思う。 縮減に努力すべきである。 的確に調査、 基本として、未収入金の実態を 者に対しては厳しい姿勢で臨み の原則や受益者負担の公平性を より、 る倒産や行方不明などの理由に 入金について、今日の不況によ 金や住宅使用料等の歳入の未収 市税をはじめ、福祉関係負担 今後とも租税等公平負担 徴収困難なものがあると 把握し、 悪質滞納

〇下水道事業課の執行体制 について

課の人員増等による執行体制の 路布設の技術的問題等、 確立をはじめ、技術者の養成や 進に課題が山積しているので、 事務処理手続きや用地買収、管 されているが、事業認可に伴う 下水道事業の推進に鋭意努力 事業推

> されたい。 ながら、事業の進展に万全を期 専門職員の配置等に十分留意し

○各小・中学校をはじめ、保健セ ンター等の借地料について

5 売渡し状況を的確に把握しなが 半永久性にかんがみ、地主等の ぼす結果となるので、公共物の 後の財政負担に大きな影響を及 地料が増大する一方であり、今 ま放置しておくことは、年々借 あったことと思うが、借地のま 諸問題があって買収に困難性が て用地買収に一層努力されたい 公的施設の建設当初には各種 地代の改定時期等に合わせ

○各種健康診査や人間ドッ クの受診率について

人保健福祉計画は、

受診率向上を図るため、キメ細 各種健康診査や人間ドックの

平成 5 年度 大野市各会計決算総括表

1 84 14 TETTA

				(単位 万円)
会計区分	子算現額	歳入決算額	歳出決算額	差引残額
一般会計	1,477,472	1,465,726	1,424,570	41,156
国民健康保険事業 特 別 会 計	239,529	243,437	229,892	13,545
老 人 保 健特 別 会 計	308,971	307,019	307,019	0
簡易水道事業特別会計	6,802	6,110	5,152	958
農業集落排水事業 特 別 会 計	104,971	65,500	65,500	0
合 計	2,137,745	2,087,792	2,032,133	55,659

予 定 額 (消費税含む) く道事業収益 (消費税含まず) k 道 事 業 費 用 (消費税含まず) 会計区分 差引残額 事益 業会計費用) 水道 11,812 0 13,320 11,812 収

思う。キメ細かな高齢者等の福 〇大野市老人保健福祉計画 知徹底を図りながら、検診率の 事例を参考にして、市民への周 民意が反映されていないように 向上に一層努力されたい。 に、受診者の義務付け等先進地 かな広報活動を推進するととも 祉施策を推進するため、住民の から急いだので、内容的に十分 六年三月に策定した大野市老 国の政策上 されたい。 施設を網羅した建設計画を検 構想」について、 た「(仮称)総合福祉センター 齢者の生きがいと豊かさを求め よう再検討されるとともに、 意見をより反映した計画となる 各種福祉関連

について

○粗大ゴミの不法投棄について

い」「捨てさせない」運動を展開 要と思う。また、「ゴミを出さな などの自主性に委ねることが肝 たないが、収集は各家庭や集落 粗大ゴミの不法投棄は後を絶

対策について全庁体制で取り組 提案するなどして、今後のゴミ 推進審議会に先進地等の事例を 討するとともに、廃棄物減量等 を図るための有効な推進策を検 と考えるので、粗大ゴミの一掃 運動としての成果が期待できる に対する意識向上やまちづくり することによって、市民のゴミ

○市街地の活性化対策について

り組むことが肝要である。 などして、市政の活性化に向け 懸案事業の推進策を再検討する 能を観光面に活用することや、 るため、今一度各施設の持つ機 る「まちづくり構想」を確立す ると思う。独自性、集客性のあ 自性のある推進策が不足してい れらすべてを通じて当市には独 いろいろと模索しているが、こ た有効な方策を、全庁挙げて取 現在市街地活性化策について

○個人林業家に対する育成 強化について

等についても今後十分留意され としてキメ細かな施策について も重要であると思うので、行政 ため、個人林業家の育成・指導 水涵養策としての涵養林の保護 する当市の役割りとして、地下 配慮するとともに、上流に位置 総合的な森林行政を推進する

委 報

りの報告は次のとおり。 項、意見、要望等の趣旨に ついて、それぞれ委員長よ 各委員会における協議事

教育民生常任委員会

ついて ○ 要介護老人住宅改造補助に

場合には、八十万円を限度とし 要介護老人や重度身体障害者の て県と市が二分の一ずつ負担し 易にするための住宅を改造する 沿って当市も補助要綱を定め、 て、補助する事業である。 在宅生活や、介護者の活動を容 この補助制度は、県の施策に

内容が市民に周知徹底されてい り組まれたい。 図られるよう、十分留意して取 な広報活動を行うなどして、こ ないように思うので、キメ細か 補助制度の円滑・公平な実施が う県当局とも緊密な協議を行い に併せて、的確に対応できるよ の制度の活用を図るべきである。 また、申し込み者の要請実態

公害防止対策としての悪臭

濃度測定経費について

な測定をされたい。 十分留意して、適切かつ効率的 ては、調査時期や測定地点など この調査測定の執行に当たっ

金全廃に関する陳情について 陳情八号路線バス地元負担

急に協議され な方針を定め、 的な視点にたって、市の基本的 での乗る運動の推進策等、総合 の協力を得るための回数券方式 受益者負担の原則や沿線住民 沿線関係区と早





務 任 委 会

について 学習や研修等への参加旅費

0

しかし、制度の趣旨や補助の

得や、行政職員としての資質の の参加旅費については、積極的 図るため、各種研修、学習会へ 向上、更には学習意欲の向上を て、「人づくりの推進」を掲げて に予算づけを行われたい。 いるが、市職員の専門知識の修 新年度の重点課題の一つとし

0 市の財政運営について

> 伸びは期待できず、交付税につ 厳しく、七年度も税収の大幅な 乗り切られるよう努力されたい 取り崩しを抑えながら、難局を 運営に努め、極力、財調基金の いては減額が予想されるので、 経常経費を抑制し、健全な財政 市の財政状況は非常に

設 常 任 委 異 会

縦貫線の促進について 〇中部縦貫自動車道および東

を確立されたい。

望してきた。 をなす事業として、再三にわたっ 会としてもその推進方を強く要 て、本会議で論議され、当委員 この事業は、当市発展の根幹

組まれたい。 早期着工に向けて積極的に取り としての重要性にかんがみ、今 終末処理場用地との関係などに 後とも誠心誠意、地元と交渉し 状は誠に厳しいものがあるが、 合計画の推進や市の活性化対策 も十分留意しながら、第三次総 今までの状況から判断して現

ついて ○請願四号農道の市道編入に

係者、関係機関などと綿密に協 想されるので、富田区や地元関 拡幅等の問題が生ずることが予 は、踏切り問題や道路の改良、 この請願事項の執行に際して

採択とした。 の意見が述べられ、全会一致で 議して、慎重に対応されたいと

産業経済常任委員会

性、整合性のある使用料金体系 各施設、各利用者にとって公平 は時期を定めて、その使用料金 の基準設定の在り方を検討し、 各農業集落排水施設について 農業集落排水事業について

にする意識の啓蒙やPRに全庁 に節水を意識し、また、合成洗 設利用者を含め、市民全体が常 営コストを抑えるためには、施 体制で取り組まれたい。 剤の利用を控える等、水を大切 また、農業集落排水施設の運

七年度の転作について

その中で、稲を植えず水を張っ 作の実施方針を打ち出したが、 とする考えが示されている。 水田」として、転作の助成対象 ておくだけの水田を「需給調整 十二月十三日農林水産省が転

して、地下水上流地区を対象に も検討されたい。 解消の一助とすることについて 独自の助成を行い、地下水不足 この「需給調整水田」に対する 涵養策に取り組んでいる当市と 現在、水田湛水による地下水